

2年日本史 2学期中間試験 問題用紙 2000/10/10実施

(回答は正しい漢字で丁寧に記入すること)

第1問 藤原氏の発展について、以下の間に答えよ。(26)

藤原北家の躍進は、(1)の厚い信任を得て(2)となった藤原冬嗣に始まる。

その子(3)は、842年の(4)では伴健岑や橘逸勢を失脚させ、(5)の摂政となって866年の(6)では大納言(7)を失脚させて勢力を強めた。

(3)の養子である(8)は884年、(9)の関白となり政治の実権をにぎった。887年に(10)天皇が即位したときには「阿衡」という言葉をめぐって紛議がおき、天皇が勅書を撤回し起草者が失脚する事態となった。

(8)の死後、(10)は摂政・関白をおかず、学者出身の(11)を登用して藤原氏をおさえようとしたが、つづく醍醐天皇の時の901年に、左大臣(12)は(11)を左遷した。(11)は間もなく左遷先の(13)で亡くなった。

10世紀の前半は醍醐天皇・(14)が親政を行い、のちに「(15)」とたたえられたが、この時期をのぞいてほとんど摂関どちらかが置かれていた。

969年、(16)が関白であった時に起こった(17)では、醍醐天皇の子で左大臣の(18)が失脚し、藤原氏の他氏排斥が完了してその地位は不動のものとなった。これ以後ほとんど常に摂政または関白がおかれ、その地位には必ず(8)の子孫がつくのが常となった。

摂政・関白が引き続いて太政官の政治を主導し、政権の最高の座にあった10世紀後半から11世紀ころの政治を摂関政治とよび、摂政・関白を出す家柄を摂関家という。

摂関家の内部では摂政・関白の地位をめぐって一族の間に勢力争いが続いたが、11世紀になって藤原道長の時におさまった。この時代には摂関家の勢力が最も盛んで、最高の官位をしめる藤原氏の中でも頂点に立つものが藤原氏の「(19)」として大きな権力を持つに至った。道長は4人の娘を次々に皇后や皇太子妃とし、朝廷で大きな権勢を振るった。道長の子である(20)も、3天皇の50年間にわたって摂政・関白をつとめ、摂関家の勢力は安定していた。

問1 (1)～(20)に入る語を記号で選べ。

(語群)ア．承和の変 イ．安和の変 ウ．薬子の変 エ．応天門の変 オ．文子の変
カ．藤原良房 キ．藤原頼通 ク．藤原基経 ケ．藤原実頼 コ．藤原時平
サ．宇多天皇 シ．清和天皇 ス．嵯峨天皇 セ．光孝天皇 ソ．村上天皇
タ．菅原道真 チ．伴善男 ツ．源高明 テ．光源氏 ト．承平・天慶の治
ナ．延喜・天曆の治 ニ．正徳の治 ヌ．太宰府 ネ．蔵人頭 ノ．氏の長者

問2 下線部について、正しく説明した文を一つ選べ。

ア．「阿衡」という職務は名目のみで実権を伴わないとして、(9)天皇が職務を放棄した事件である。
イ．この事件で失脚した起草者は橘広相であった。
ウ．この事件の直後に天皇は退位し、藤原胤子の産んだ皇太子が即位した。

問3 次の史料を読んで問に答えよ。

a 寛仁二年十月十六日、今日、女御藤原威子を以つて皇后に立つるの日なり。・・・b 太閤、c 下官を招き呼びて云く、「和歌を読まむと欲す、必ず和すべし」といへば、答へて云ふ、「いかでか和し奉らざらむ」。また云く、「誇りたる歌になむある、但し宿構に非ず」といへり。「d 此の世をば我が世とぞ思ふ望月のかけたることも無しと思へば」余申して云ふ、「御歌優美なり、酬答するに方無し、満座ただこの御歌を誦すべし」と。

(1) a は西暦1018年であるが、この翌年には女真族が九州に襲来するという事件が起こっている。これを の入寇という。 に入る語を答えよ。

- (2) bは道長のことであるが、彼についての説明として正しいものを一つ選べ。
 ア．およそ30年間にわたって摂政の地位にあった。
 イ．後一条天皇のとき関白になったが、およそ1年でその地位を息子に譲った。
 ウ．「御堂関白記」とよばれる日記を残している。
- (3) cはこの出典の作者であるが、誰のことか。
- (4) dの歌にあらわれた「太閤」の気持ちとしてもっとも適切なものを一つ選べ。
 ア．3人の娘を次々と皇后にたてて得意でたまらない。
 イ．満月を迎えると後は欠けるしかないので不安だ。
 ウ．今でも何もかも思い通りだが、死後の世界はもっとすばらしいだろう。
- (5) この文章の出典を答えよ。

第2問 土地や税に関して、以下の問に答えよ。(18)

政府は、人民を戸籍・計帳に登録させ、これを50戸ずつの里に組織することによって、律令政治を末端にまで浸透させるしくみをとった。戸籍は【a】年ごとにつくられ、それにもとづいて【b】歳以上の男子に【c】反、女子に男子の【d】の(1)があたえられ、死者の田は【e】年ごとの班年をまって収公された。これを(2)という。また田地は、班田の便宜のため、国家の手で整然と区画された。これを(3)という。

農民は(2)によって最低限の生活を保障されたが、他面、国家に対して重い負担をおっていた。租は(1)などの収穫から3%程度の稲をおさめるもので、地方の国ぐにたくわえられ、その国の経費にあてられた。地方の特産物を徴収する(4)や歳役を意味する庸は絹・布・糸などをおさめるもので、おもに成年男子に課せられ、(5)によって都に運ばれ、中央政府の財源になった。(6)は国司の命令によって、日数をかぎって国内の水利土木工事業や国衙の雑用などに奉仕する労役であった。このほか、春に国家が稲を貸しつけ、秋に利息とともに徴収する(7)の制度があった。

しかし、(1)はしだいに不足するようになったので、土地の私有が認められるようになっていった。また、重い負担から逃れるための浮浪・逃亡・偽籍により、8世紀末ころから(2)の実行も難しくなった。このため政府は、823年に太宰府管内に(8)とよばれる直営田を設けた。また879年には畿内に(9)とよばれる直営田を設けた。これらの経営には有力農民の力が利用された。のちには、中央の官司がそれぞれに自分の土地を持つようになった。これを(10)という。

問1 (1)～(10)に適切な語を入れよ。

問2 【a～e】には数字が入る。組み合わせの正しいものを選び記号で答えよ。(但し、順序はaから)

- ア．6・6・4・2/3・12 イ．6・6・2・2/3・6 ウ．6・8・2・2/3・6
 エ．10・8・4・1/3・6 オ．12・6・2・1/3・6 カ．12・8・4・2/3・12

問3 下線部に関して、以下の問に答えよ。

養老七年四月辛亥太政官奏すらく、「頃者百姓漸く多く、田池窄狭なり。望み請ふらくは、天下に勤め課せて、田疇を開闢せしめん。其れ新たに溝池を造り、開墾を営む者あらば、多少に限らず、給して、()に伝へしめむ。若し旧の溝池を遂はば、其の一身に給せむ」と。

設問1 . この法令は一般に何とよばれているか。

- 2 . は西暦何年か。
- 3 . ()に入る語を漢字2字で答えよ。
- 4 . 次の文が正しければ , 誤りなら×を記せ。
 ア . この法令以前には、住居やその周囲の土地も私有は認められていなかった。
 イ . この法令によって私有が認められた土地は、税を免除される不輸租田であった。
 ウ . 支給された(1)は、売買はできなかったが貸すことはできた。
- 5 . この法令が発布された20年後、土地の私有を認める法令が出されたが何というか。

第3問 奈良時代の政治について()に適切な語を入れ、あとの問に答えよ。(14)

中臣鎌足の子である藤原不比等は、律令制度の確立に力を尽くすとともに皇室に接近して藤原氏発展の基礎を固めた。不比等の死後4人の子どもたちは、皇族で左大臣であった(1)を策謀によって729年に自殺させ、不比等の娘(2)を聖武天皇の皇后にたてることに成功したが、その後流行した疫病のため、4子はいっただけで世を去った。彼らの死後は、皇族出身の(3)が政権を握り、唐から帰国した(4)や僧(5)が(3)を補佐するとともに、聖武天皇の信任を得て勢いを振るった。しかし、飢饉や疫病による社会の動揺が激しくなり、740年には九州で(6)が反乱をおこした。乱の平定後も朝廷の動揺はおさまらず、都はつぎつぎと移された。

聖武天皇が退位したのちは、光明皇太后のもとで、その甥にあたる(7)が権勢を振るった。(7)は反対派の(3)の子(8)を倒し、淳仁天皇から(9)の名を賜って専制的な政治を行った。しかし、孝謙上皇に信任された僧(10)が進出してくると(9)はこれと対立し、764年、挙兵したが敗死した。そののち、孝謙上皇はふたたび皇位について(11)天皇となり、僧(10)はそのもとで太政大臣禪師となり、ついで(12)の称号を得て権勢を振るった。この間、皇位の継承をめぐる皇族や貴族の争いが続き、また宮殿や寺院の造営によって国家財政も大きく乱れた。このため、藤原式家の(13)らは、(11)天皇が死去すると(10)を下野の薬師寺に追放し、新たに光仁天皇をたて、律令政治の再建につとめることとなった。

問 下線部について、僧(10)が皇位をうかがった事件を何というか。

第4問 古代の宮都の変遷について、図表を見て問に答えよ。(10)

問1 (1)の都について、ここが都でなかった時の事項を次から選び記号で答えよ。

- ア. 藤原不比等が右大臣に就任した。 A
- イ. 大宝律令が完成した。
- ウ. 和同開珎が鑄造された。
- エ. 蓄銭叙位令が制定された。

飛鳥	難波宮	飛鳥	大津宮
飛鳥浄御原宮	(1)	(2)	(3)
難波宮	(4)	(2)	(5)
平安京			

問2 (2)に遷都したときの天皇はだれか。

問3 (3)の位置をBから選び記号で答えよ。

問4 (3)について、ここが都でなかった時の事項を次から選び記号で答えよ。

- ア. 盧舎那大仏造立の詔が出された。
- イ. 国分寺建立の詔が出された。
- ウ. 紫香楽の離宮の造営が始まった。
- エ. 藤原広嗣の反乱がおきた。

問5 難波宮の位置を地図から選び記号で答えよ。

問6 (4)の宮都の名称を答えよ。

問7 (5)の宮都の名称を答えよ。

問8 (5)の造営責任者であった人物が遷都の翌年暗殺された。その人物はだれか。

問9 平安京に遷都したときの天皇はだれか。

問10 平安京について、ここに都がおかれていた時の事項を次から選び記号で答えよ。

- ア. 坂上田村麻呂が胆沢城を築き鎮守府とした。
- イ. 阿倍比羅夫が秋田・能代から津軽方面の蝦夷を討った。
- ウ. 蝦夷出身で陸奥国伊治郡の郡司であった砦麻呂が反乱をおこした。
- エ. 大野東人によって多賀城が設置され陸奥国の国府と鎮守府がおかれた。

問5 令外官と格式について()に適語を入れよ。(6)

令の官制の不能を補修するために令外官が設けられた。大納言と同じ職掌を持つ(1)や、蝦夷征討の総

大将である(2)がこれである。桓武天皇のとき、国司交代の監督のために設けられたのは(3)である。

格は律令の改正や補足修正、式は施行細則である。嵯峨天皇のときの弘仁、清和天皇の貞観、醍醐天皇の延喜の3つを(4)格式という。また、養老令の注釈書(公式見解)として、(5)がある。さらに、9世紀後半に惟宗直本が私的に編纂した注釈集として(6)がある。

問6 奈良時代から平安初期にかけての文化について、()に適語または記号を入れ、以下の問に答えよ。(26)

左の写真Aは東大寺(1)で、右側の礼堂は鎌倉時代の再建であるが、左側の正堂は創建時のものである。その本尊が不空羂索観音像で下記写真群の(2)である。またその脇に配置されているのが日光・月光菩薩像で月光菩薩像は下記写真群の(3)である。

東大寺には、聖武天皇が発願し、民間への布教のかたわら社会事業に尽くした(4)が協力して造立された盧舎那大仏があるが、これは(5)を使命として造立されたもので、(5)のための法会や祈祷はたびたびおこなわれ、仏教全体は国家による保護統制をうけた。また仏教の内容は学問的性格が強く(6)とよばれる学派が形成され、一寺にすべてが整っていることもあった。

左の写真Bは(7)の金堂で、奈良時代の金堂で現存するのはこれだけである。(7)は苦難をおかして渡来し(8)を伝えた唐僧(9)によって建立された。奈良時代には和歌集として万葉集があるが、貴族の教養としては漢詩文をつくるのが特に重んじられた。現存する最古の漢詩集は(10)で、当時の著名な文人としては淡海三船や石上宅嗣がいる。

問1 下線部の不空羂索観音像と同じ作り方の仏像を写真群 から選び記号で答えよ。

問2 その作り方とは次のどれか。

ア．乾漆像 イ．一木造 ウ．塑像 エ．金銅像

問3 弘仁・貞観文化に属するものとして**正しくないもの**を一つ選んで記号で答えよ。

問4 歴史書について答えよ。

(設問1) 日本書紀編纂の中心人物は誰か。

(設問2) 日本書紀以降10世紀はじめまでに国家事業として編纂された6つの歴史書のことを何というか。

問5 平安初期の仏教について答えよ。

(設問1) 真言宗は、秘密の呪法を通じて仏の世界に接し救いを得ようとする。のちには天台宗もその傾向を強めていく。このような仏教を何というか、漢字2字で答えよ。

(設問2) 天台宗・真言宗に関する語を語群から選んで表を完成させよ。

	天台宗	真言宗
開祖	(1)	(2)
開宗	785年(3)山に草堂を創建。804年入唐,天台山に至り,805年に帰国。大乘戒壇設立を主張。	804年入唐,806年帰国。819年に金剛峰寺を創建。823年,京都教王護国寺(東寺)を賜う。
著作	(4)	(5)
性格	(6) 仏教の性格をもつ。 鎮護国家や(7) 利益を求める。	

語群 ア・法然 イ・親鸞 ウ・最澄 エ・空海 オ・三教指帰 カ・高野 キ・顕戒論
ク・来世 ケ・現世 コ・比叡 サ・山岳

(設問3) (2)が(1)に送った有名な手紙を、その書き出しの言葉から何というか。(漢字3字)

(設問4) (2)が庶民も受け入れる教育機関としてつくった学校は何か。

(設問5) (2)のことを弘法大師ともいう。この人に関して「弘法も筆の誤り」ということわざがあるが、その意味としてもっとも適切なものを次から一つ選べ。

ア. 情けをかけると人のためにならない。

イ. 名人でもときには失敗することがある。

ウ. 名人はどんな道具を使っても上手にできる。

エ. 人に情けをかければいずれは自分のためになる。